

新刊雑誌記載参考記事主題

工學研究摘要 第7號 昭和17年7月

| | |
|---------------------------------------|----------|
| 高速荷重に對する鉛筋コンクリート柱の耐力に關する研究 | 勝田 千利 10 |
| 銅, マンガン, 鉛三元合金の研究 | 田崎 正浩 33 |
| 鋅鐵の耐摩擦性及耐磨耗性の研究 | 田崎 正浩 37 |
| 廻轉對陰極 X線管球を用ひて銅の焼入及び時致中に於ける結晶構造の變化の研究 | 西山 善次 39 |

滿業資料彙報 第29號 康徳8年12月

| | |
|----------------|---------|
| 獨逸に於ける石炭増産に就いて | 淺井 一彦 8 |
| 重工業統計彙報 | 14 |
| 重工業日誌 | 表 3 |

大陸科學院彙報 第6卷 第4號 康徳9年8月

| | |
|-----------------------|----------------|
| 銅, 錫, カドミウム, アマルガムに就て | 田丸 莞爾 417 |
| 代用セメントに關する研究(1) | 澤井布太郎・梅田武彦 433 |

日本機械學會誌 第45卷 第307號 昭和17年10月

| | |
|-------|-----------|
| 金屬の疲れ | 西原 利夫 671 |
|-------|-----------|

日本鑛業會誌 第58卷 第690號 昭和17年10月

| | |
|----------------------------|--------------------|
| 灰重石及び鐵精重石の石鹼浮選に於ける各種浮選劑の作用 | 山田賀一・伊藤一郎・船越 信 692 |
| 錫製鍊の基礎(1) | 伊藤 尙 644 |
| 地球に於ける化學元素の分布並に密度分布に就て | 小田切瑞穂 652 |
| 朝鮮のコバルト鑛床 | 660 |
| 攀上頁岩と本邦アルミニウム工業 | 659 |

耐火材料 第6卷 昭和17年1月

| | |
|-------------------|-----------|
| 珪石煉瓦の成形所要時間に就て | 高良 義郎 269 |
| 珪石煉瓦の結合劑に關する研究 | 森 泉 273 |
| マグナイト煉瓦の特殊なる用途に就て | 下井 勇 279 |
| スピネル耐火物に關する研究 | 品川 章彦 287 |
| スピネル耐火物に就て | 稻村 泰 302 |

日本航空學會誌 第9卷 第90號 昭和17年10月

| | |
|------------------|---------------|
| 圓樞の剛性とその應力分布との關係 | 瀧谷巖・宮内一郎 1190 |
| 圓樞の應力分布に關する一實驗 | 濱田 喜三 1198 |
| 直交異方性板の平面應力に就て | 池田 健 1209 |

工業現勢 第11卷 第7號 昭和17年7月

| | |
|-----------------------|----|
| 本邦鋼及鋁鋼生産高 | 5 |
| 主要國鐵鋼生産額 | 6 |
| 鋼, 鐵類及石炭輸出入高 | 16 |
| 銅, 洋紙, 洋灰, 木林及砂糖月末在荷高 | 22 |

電氣製鋼 第18卷 第10號 昭和17年10月

| | |
|-------------|-----------|
| 脱炭反應に就て | 猪村 稔 371 |
| 鋼材の検査法(其ノ2) | 野田 一六 389 |

耐火材料 第6卷 昭和16年11月

| | |
|------------------------------------|-----------|
| 平爐に於ける珪石煉瓦の損傷原因と自珪石煉瓦の製造法に關する研究に就て | 大野田 剛 197 |
| 耐火物製造に於ける平爐狀態圖の適用 | 稻村 泰 208 |
| 珪石煉瓦原料用珪石に就て | 高良 義郎 231 |
| 平爐に就ての座談會 | 259 |

昭和鑛業研究所報告 第1號 康徳8年9月

滿洲産ドロマイトの熱的性質

| | |
|-------------------------------|-----------|
| 大日本鑛業協會雜誌 第50集 第598號 昭和17年10月 | |
| 酸化物燻業と金屬燻業との關係 | 佐藤純夫譯 546 |

衛生工業協會誌 第16卷 第9號 昭和17年9月

| | |
|--------------------------------|---------------|
| 冷凍機に依る坑内調整に就て | 星加 雅男 704 |
| 鐵筋コンクリートの傳熱係數決定に對する電氣構實驗の應用に就て | 拔山四郎・柘原半二 774 |

鑛物 第14卷 第8號 昭和17年8月

| | |
|------------|-----------|
| キューボク溶解に就て | 足立 次郎 372 |
|------------|-----------|

採鑛冶金 第20年 第10報 昭和17年10月

| | |
|----------------------------|-----------|
| 透過光顯微鏡の鑛石用反射顯微鏡への改裝(1) | 松岡 貞護 381 |
| 熔融金屬及滓の浮性及流動性測定法及裝置に就て(XI) | 森田 志郎 386 |
| 濕式磨鍊に於ける鑛粒の細度分布に及ぼす浮選劑の影響 | 久保田伸雄 394 |

鑛物 第14卷 第7號 昭和17年7月

| | |
|---|-----|
| 第8回小型内燃機關シリンダー鑛造法研究會記事 | 285 |
| マグネシウム合金の物理的性質・輕合金の性質に及ぼす熔解狀態の影響(2) 酸素アセチレン焔に依る可鍛鑛鐵の表面化 | 320 |

電氣化學 第10卷 第10號 昭和17年10月

| | |
|-----------------|----------|
| 交流電氣爐の實用特性に就て | 衛藤 久市 11 |
| セレンウム光電池に依る比色分析 | 比留間光一 17 |

工業化學雜誌 第45編第10册第536號 昭和17年10月

| | |
|----------------|------------|
| ガラス化の反應過程 | 長枝 春平 1136 |
| 瀉酸塔に於ける傳熱と蒸氣擴散 | 上田 昌稔 1140 |

工業國策 第5卷 第11號

| | |
|-----------------|----------|
| 南方開發と勞務問題 | 井上 雅二 8 |
| 佛印勞働者の特性と現状 | 水谷 乙吉 20 |
| 南方勞務對策の重要性と其課題 | 吉澤 秋男 45 |
| 鋼不足對策としてのアルミニウム | 西村 啓造 67 |

北海道鑛山學會誌 第1卷 第1號 昭和17年1月

| | |
|-------------------|----------|
| 坑内排水の一例に就て | 佐藤 胸治 2 |
| 空氣鑿岩機の性能に就て | 中山 銳一 11 |
| 南洋に於ける石炭 | 21 |
| 獨逸に於ける石炭増産に就て | 23 |
| 鑿岩, 坑掘下及採鑛法の現状と將來 | 25 |
| 鑿坑安全柱の回收 | 26 |
| コンクリートを充填した薄い鐵管支柱 | 28 |
| 石炭より天然ガスの採取 | 28 |

朝鮮鑛業會誌 第25卷 第9號 昭和17年9月

| | |
|------------------------|----------|
| 朝鮮のマンガン鑛床 | 鈴木 陽雄 1 |
| 坑内支柱計算に就て | 瀧上 虎治 11 |
| 和歌山縣三陽鑛山のコバルト(三本杉) | 20 |
| 金門高産吳須土からコバルト抽出試驗(三本杉) | 21 |

造船協會雜誌 第245號 昭和17年8月

| | |
|--|-----------|
| 鋼及鑛鐵の把持力に對する考察 | 渡邊 正紀 439 |
| 接合部一外力を受けた場合に生ずる龜裂と脆性(1)(1, 一龜裂の形式並びに熔接性の定表) | 449 |
| 各種防蝕法を施せるエレクトロンの彎曲腐蝕疲勞限度の比較(第一報)亜セレン酸防蝕の | |

| | |
|--|--------------------|
| 場合) | 秋月 三郎 451 |
| 滲炭層の深さと機械的性質との關係(第1報) | 秋月 三郎 452 |
| 代用鋼と従來鋼との材質判別装置に就いて | 水谷 太郎 454 青井 一雄 |
| 技術評論 No. 236 第19卷 第10號 昭和17年10月 | |
| 東南亞の資源と技術(2) | 相川 春喜 14 |
| 發送電 第2卷 第10號 昭和17年10月 | |
| 電柱の防腐に就て(2) | 坂巻 菊治 1 |
| 日滿支石炭時報 第29號 昭和17年9月 | |
| 選炭の重要性に就て | 岡田丈五郎 |
| 臺灣炭の船舶炭庫内に於ける安全取扱法 | 臺灣石炭株式會社 24 |
| 發破の負荷 | 佐藤秀之助 45 |
| 九州鑛山學會誌 昭和17年10月 | |
| 鐵鋼と稀有金屬元素 | 谷村 熙 449 |
| 稀有金屬に関する研究會 | 460 |
| 建築雜誌 第56輯 第690號 昭和17年9月 | |
| 建築工差成方策案 | 建築學會住宅委員會報告 668 |
| 殖銀調査月報 (第53號) 昭和17年10月 | |
| 朝鮮經濟情報 | 四 鐵 業 24 |
| 資料彙報 第1卷 第12號 康徳7年7月 | |
| 參考資料 | 37 |
| 工業評論 第28卷 第10號 昭和17年10月 | |
| 工評ニュース, 特殊鋼標準寸法試案成る | 34 |
| 金屬理論の發展 | 野呂 道夫 64 |
| 化學機械 第6卷 第2號 昭和17年6月 | |
| 工學的單位系に就て | 藤田 重文 105 |
| 各種計算圖表(II) | 108 |
| 日立評論 第25卷 第10號 昭和17年10月 | |
| 鑄物と技術の向上 | 網谷 俊平 590 |
| 脱濕送風による1t熔銑爐燥業報告 | 廣田 博次 592 |
| CO ₂ メータによるキヌボラ操業 | 池田 滋 596 |
| 鑄鐵の脱室の影響 | 宮下格之助 600 |
| 木型用木材の選擇とその使用法 | 關 仁 603 |
| 鑄物砂の吸濕に関する二三の實驗 | 天利義昌・富田袈裟 607 |
| 鑄鐵製品に對する湯口に就て | 丹浩 平 宮坂重俊 612 |
| 鑄物のガス巢に関する二三の研究 | 松本 寅雄 618 |
| 大型鋼塊鑄型の製作に就て | 杉野 馨 624 |
| 高力可鍛鑄鐵の研究 | 鹽谷 勝喜 627 |
| 異心可鍛鑄鐵の焼入組織 | 南波 榮吉 632 |
| 白銑の偏析現象に及ぼすシュリンカーの影響 | 山根 可雄 636 |
| 代用材としての異心可鍛鑄鐵 | 横田 稔 641 |
| 日立超耐熱鑄鐵 THW | 隈部 信 646 |
| 振動による氣泡除去に就て | 岡田 政美 655 |
| 技 研 第2卷 第5號 昭和17年9月 | |
| ニッケルを含ませ特殊鋼の材質に及ぼす少量のNi及びCrの影響 | 根守 侃 1 |
| コークス用炭の實際的試驗法に就て | 原田 正夫 9 |
| ヴキツカース硬度計用試料微動裝置に就て | 柏原 方勝 16 |
| タマンガン鑛石に就て | 鋼管鑛業株式會社 18 |
| ドリルパイプの腐蝕疲勞(III) | 25 |
| 燃料研究報告 第48號 | |
| 高温タールの高壓水素添加分解によるベンゾ | |

ール類の製造

業 界 雜 報

戎克船團による輸送力の増強策

中支水域に於ける輸送力の増強策として、組織された戎克船團により近く大冶鐵鑛石及び北支炭輸送計畫が本格的に押進められる模様である。(上海大陸 10月22日)

滿洲に於ける鉄鑛増産計畫

滿洲に於ける製鐵事業會社、昭和製鋼所、本溪湖煤鐵及び東邊道開發の三會社が相提携し昭和製鋼所及び東邊道開發の大栗子及び七道江兩鑛山の鐵鑛石増産に必要とする資材並に人材を供與し鉄鑛増産を確保する事になった。(哈爾濱 10月28日)

滿洲の鐵鋼増産重點主義

鐵鋼増産については、滿洲が日滿支三國中に占める製鐵立地條件から見ても率先して擔當すべき位置にある點から明年度物動計畫策定方針に關聯し明年度物動計畫策定の重點を鐵鋼の徹底的増産におくとして鐵鋼増産に全力を集結する事に決定した。(哈爾濱 10月29日)

煙筒滿炭増産計畫

大東亞戰爭勃發以來東邊道の鐵鑛は愈々その眞價を發揮し戦時下鐵鋼増産計畫に樞要なる役割を果すこととなつたが鐵鑛用炭として鐵廠子と共に優秀性を誇る煙筒滿炭も東邊道鐵鑛増産に對處して明年より愈々大増産を敢行する運びとなつた。(哈爾濱 10月28日)

鐵鑛、鐵屑、北支炭に劃期的プール制實施

鐵鋼統制會では製鐵用主要原料のうち鐵鑛石、鐵屑及び北支炭のプール價格實施要綱案の検討を急いでみたが商工省はじめ關係方面の諒解を得るに至つたので愈々11月1日より實施、これが一手買取販賣機關として鐵鋼原料統制會社が當ることとなつた。プール價格制の目標は、

1. 原料價格の凸凹を是正して單一化すること
1. 生産増強を促進するため原料配合率を合理化すること
1. 海陸の輸送合理化をはかること特に高品位原料の輸送を促進して船舶の效率的使用をはかること

などである、しかして鑛石、鐵屑、北支炭ともに運用は萬全を期するため平衡資金を設定することとなつた。なほ今次のプール價格制は内地石炭をはじめ滿炭、石灰石、合金鐵など主要製鐵原料に對する全面的な平準價格實施の前提とみられ鐵鋼價格政策上劃期的な施策としてその成果は期待されてゐる。(西日本 10月30日)

鮮臺向鋼材輸送鐵鋼版一元統制

鐵鋼版では従來の各製鋼會社對船舶運管會の個別的船腹契約制を廢し鐵鋼版の一元的統制下に置き戦時海上輸送能力發揮に萬全を期することになつた。(大阪日々 11月3日)

宮原第二熔鑛爐の建設完成

康徳4年7月本溪湖宮原盆地に熔鑛爐建設の作業がはじめられて6ヶ年たちその建設が見事なつて10月25日に晴れの火入れ式が行はれた。(哈爾濱 10月31日) 近く竣工を豫定せられる團鋼工場の操業と相俟つて普通銑及び下級鑄銑の生産が行はれるものと期待される。(滿洲日日 11月6日)

鐵鑛統制會の鐵鋼生産確保の應急對策

船腹能力の現状に鑑み従來支那及び南方方面に依存せる鐵鋼原料を一部優良品位鑛石等を除いてはこれをわが國內に求め、國內原料

の開発、利用にその重點を移行せしめんとするもので、これがため燒結、圓錐設備の擴充強化並に配給方法の改善をその根本要旨としてゐる。(東京都 11 月 8 日)

商工省の生産擴充促進方策

南方資源活用に關する試験研究を促進し、又重要鑛工業たる製鐵事業、石炭鑛業、重要機械工業等に生産の能率基準を設定して、生産力の増強を圖る一方工作機械の性能向上並びに高級機械用鑄物の品質の向上を圖る爲に檢定制度を強化すると同時に技術指導施設を充實し重要機械の精度の高度化を期せんとするものである。(東京都 11 月 8 日)

大東亞戰爭日記摘要

10 月 11 日 サボ島附近に於てわが巡洋艦戦隊は敵巡洋艦 2 隻撃沈、巡洋艦 1 隻大破、驅逐艦 1 隻を撃沈した。我方に巡洋艦 1 隻を失つた。

10 月 13 日 ワシントンからの UP 電によれば米海軍省は 11 日日本潜水艦が最近米西海岸沖で米油槽船 1 隻に魚雷を命中せしめこれを撃沈した旨發表した。

10 月 15 日 陸軍兵器行政本部の業務開始、首脳部人事を發表。

10 月 26 日 午後 6 時 30 分大本營發表。

帝國陸軍航空部隊は 10 月 25 日午後印度東部に於ける敵の航空基地「テンスキア」及び「チツタゴン」を急襲し、敵機 4 (内不確實 1) を撃墜し、地上に在りし敵機 39 以上 (内大型機 18) を炎上若くは破壊した。我が方の損害 1 機。

10 月 27 日 午後 8 時 30 分大本營發表

(1) 帝國艦隊は 10 月 26 日黎明より夜間に互り「サンタクルーズ」諸島北方洋上に於て敵有力艦隊と交戦、敵航空母艦 4 隻、戦艦 1 隻、艦型未詳 1 隻を撃沈、戦艦 1 隻、巡洋艦 3 隻、驅逐艦 1 隻を中破し、敵機 200 機以上を撃墜その他により喪失せしめた。我方の損害航空母艦 2 隻、巡洋艦 1 隻小破せるも何れも戦闘航海に支障なし、未歸還機 40 數機 (註) 本海戦を南太平洋海戦と稱す。

(2) 第 2 次ソロモン海戦以後南太平洋海戦直前まで即ち 8 月 25 日より 10 月 25 日に至る間に於けるソロモン群島方面の帝國海軍部隊の戦果左の如し。

〔艦船〕 撃沈 米航空母艦ワスプ、巡洋艦 3 隻、驅逐艦 5 隻、潜水艦 6 隻、輸送船 6 隻、掃海艇 1 隻。

大破 戦艦 1 隻、航空母艦 1 隻、巡洋艦 1 隻、潜水艦 1 隻、輸送船 2 隻、掃海艇 1 隻。

中破 航空母艦 1 隻。

〔飛行機〕 撃墜 403 機、地上撃破 97 機、その他 B 17 型、大型爆撃機 19 機に對し大損害を與へた。

〔我方の損害〕 艦船 沈没 巡洋艦 2 隻、驅逐艦 2 隻、潜水艦 1 隻、輸送船 5 隻。

大破 驅逐艦 1 隻、輸送船 3 隻。

中破 巡洋艦 1 隻、驅逐艦 2 隻、潜水艦 1 隻、輸送船 2 隻、飛行機 自爆 26 機、大破 31 機、未歸還機 78 機。

11 月 1 日 大東亞省誕生し官界一新す。

11 月 7 日 大東亞戰爭開始以來米英兩國並に中南米諸國政府の在留邦人に對する不當迫害は、米英と第 1 次交換後判明した的確なる不當事實を列擧し嚴重な抗議を申込む。

○ 10 月中開催委員會並に其の議題

工業品規格統一調査會

1. 第 1 部第 1 委員會打合せ 10.19
 1. 冷間引拔繼目無鋼管の寸法單純化
 2. 日本標準規格第 15 號水管罐用繼目無鋼管の改正
 3. " 第 16 號圓罐用繼目無鋼管の改正
 4. " 第 17 號機關車罐用繼目無鋼管の改正
 5. " 第 18 號一般用繼目無鋼管の改正
2. 第 1 部第 4 委員會
水道用遠心力鑄鐵管
3. 第 2 部第 21 委員會
 1. 色 (製作小委員會) 10.15
 2. 色 (整理小委員會) 10.19
 3. 色 (測色小委員會) 10.22
4. 第 3 部第 5 委員會 10.8
 1. 珪素鋼板
 2. 珪素鋼板標準磁氣試験
5. 第 3 部第 7 委員會 2 回 2 日 10.14
電氣用絶緣ワニス 10.15
6. 第 3 部第 9 委員會 10.7
 1. 架空配電用アルミ線接續管
 2. アルミ線壓縮接續用工具
7. 第 4 部第 1 委員會 2 回 2 日 10.1
10.22
 1. 刻印に依るネジの表示方法
 2. 叩スパナ
 3. ねぢ外徑の單純化
8. 第 4 部第 1 委員會第 3 小委員會 10.5
ねぢ用限界ゲージ
9. 第 4 部第 2 委員會 10.15
フランジ規格中改正
10. 第 4 部第 4 委員會第 2 小委員會 2 回 2 日 10.8
10.20
 1. センタ孔
 2. センタ錐
 3. センタリーマ
 4. ねぢ委員會より照會の刻印によるねぢの記號規格案
11. 第 4 部第 7 委員會 10.27
製圖規格改正
12. 第 4 部第 12 委員會 10.6
 1. 自動車用スプライン
 2. " ユニオン管接手
13. 大釘に關する打合せ 2 回 2 日 10.13
10.30
14. 整理委員會 10.20
規格番號規格
15. 急速選定を要する品目選定に關する打合せ 10.22